

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議

カムイワッカ部会（第22回）議事録

日時：2024年12月17日（火） 13:30～16:00

場所：斜里町産業会館 大ホール

議事：

1. 2024年度の事業実施結果について
2. 道道知床公園線における工事の進捗について
3. 2025年度以降の事業の実施方針について
4. その他

配布資料：

資料1 2024年度カムイワッカ地区の運用状況と各事業の実施結果

資料2 道道知床公園線における工事の進捗

資料3 2025年度以降の事業の実施方針について

参考資料1 カムイワッカ湯ノ滝のぼり パンフレット

参考資料2 カムイワッカ湯ノ滝のぼり アンケート結果について

参考資料3 斜面変動モニタリングの実施結果について

参考資料4 2024年度知床公園線 通行止め区間の使用承認申請の集計結果

参考資料5 2025年度 祝休日カレンダー

参考資料6 第21回カムイワッカ部会 議事録

出席者名簿

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】 10名		
知床自然保護協会	理事	綾野 雄次
斜里山岳会	事務局次長	笠井 憲子
羅臼山岳会		欠席
北見地区バス協会 斜里バス株式会社	代表取締役	下山 誠
株式会社斜里ハイヤー		欠席
NPO 法人 知床斜里町観光協会		欠席
知床温泉旅館協同組合		欠席
ウトロ自治会		欠席
知床ガイド協議会	会員	畑谷 雅樹
一般財団法人 自然公園財団 知床支部		欠席
株式会社ユートピア知床	代表取締役	櫻井 晋吾
株式会社ユートピア知床 五湖営業課	課長	吉田 和彦
ウトロ地域協議会	事務局	渡邊 誠
公益財団法人 知床財団	理事長	村田 良介
公益財団法人 知床財団	事務局長	玉置 創司
公益財団法人 知床財団 保護管理事業係	係長	金川 晃大
【関係行政機関】 0名		
国土交通省 北海道開発局 網走開発建設部 技術管理課		欠席
北海道運輸局 北見運輸支局		欠席
北海道警察 北見方面斜里警察署 地域交通課		欠席

機 関 名	職 名	氏 名
【事務局】 23 名		
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席国立公園 保護管理企画官	二神 紀彦
環境省 ウトロ自然保護官事務所	国立公園利用 企画官	伊藤 薫
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	署長	山之内 弘幸
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	清水 亜広
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	川崎 文圭
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	寺田 崇晃
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室道路課	道路課長	島 豊
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室道路課	主査(道路)	塩見 秀之
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部維持管理課	道路管理係長	浅野 洋基
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室事業課	主査(道路第一)	中橋 友博
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室事業課	技師	鶴田 将也
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部斜里出張所	次長	三上 政博
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部斜里出張所	主査(管理調整)	松本 陽一
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部斜里出張所	主査(維持)	飛弾野 智也
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 知床分室	主幹(知床遺産)	三井 義也
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課	課長	矢嶋 裕一
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 自然環境係	係長	小川 耕平
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課	主事	綾部 武洋
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課	主事	宮崎 祐伍
斜里町役場 総務部 環境課	課長	塩 幸也
斜里町役場 総務部 環境課 自然環境係	係長	吉田 貴裕
斜里町役場 産業部 商工観光課	課長	南出 康弘
斜里町役場 産業部 商工観光課 観光係	係長	岩渕 聖也
【運営補助】 4 名		
公益財団法人 知床財団 事業部	参事(公園事業担当)	秋葉 圭太
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)	係員	萱野 真未
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)	係員	原口 桜子
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)	係員	仁木 可奈子

【開会あいさつ】

環境省（伊藤）：開会に先立ち事務連絡を申し上げる。本会議は公開での実施であり、発言は記録し、後日議事録として Web サイトで公開する。発言の際はマイクを使用し、所属と氏名を述べていただくようお願い申し上げる。本会議は 16：00 の終了を予定している。配布資料の確認は割愛するが、不備があれば事務局へ申し出ていただきたい。開会に先立ち事務局を代表し、環境省ウトロ自然保護官事務所二神より挨拶申し上げる。

環境省（二神）：本日は年末の忙しい中、参集いただき感謝申し上げる。カムイワッカ部会はカムイワッカ湯の滝のあり方、マイカー規制や交通アクセス、さらには硫黄山の登山利用などについて議論を行う場として継続的に開催している。今年度はコロナ禍の影響がほぼ解消され、外国人利用者の姿も目立つようになった。後ほど詳細を報告するが、湯の滝事業の実績は昨年度比 25% の増加となり、また大きなトラブルや事故もなくおおむね順調に推移したと考えている。

一方で、湯の滝事業は今年度が試行事業の最終年となる。これまでの取組みを振り返り、次年度以降の方向性を検討するにあたっては解決すべき課題も多く残されている。本日はこれまでの事業経過について報告するとともに、湯の滝事業やカムイワッカ地区全体の利用のあり方について中期的な視点での意見交換を主題としたい。また、可能な範囲で来年度の事業計画について協議を行いたい。皆様の忌憚のない意見をお願い申し上げる。

環境省（伊藤）：それでは議事に移る。司会進行は斜里町役場の南出商工観光課長にお願いする。なお、規約上は塩環境課長が部会長であり進行を担当すべきだが、着任間もないため、今回は事業の経緯を把握している南出課長に担当頂く。

【議事】

1. 2024 年度の事業実施結果について

- (1) カムイワッカ地区の運用状況
- (2) カムイワッカ湯の滝利活用検討事業

資料 1 の前半について斜里町（岩渕）が説明

参考資料 1～参考資料 3 について知床財団（秋葉）が説明

斜里町（南出）：資料 1、及び参考資料の内容について質問、意見はあるか。

知床自然保護協会（綾野）：3 の滝での事故がとても多いようだ。登りのルートは右と左とがあるが、右ルートを選んだ基準は何か。過去に利用していたが、けが人は出なかった。左のルートの方が安全だと思うが誰の判断か分かれば教えていただきたい。

斜里町（岩渕）：試行事業開始当時に、山岳ガイドに現地へお越しいただき、安全面を考慮した上で推奨ルートとした。左側の方が安全ということであれば検討する必要もあるかと考える。

知床自然保護協会（綾野）：左ルートも使い事故率を比較してはどうか。事務局で検証し、右ルートが明らかに危険だということであればやめた方が良い。期間ごとにルートを変えるなどモニタリングを行い、ルート選定してはどうか。3の滝に関してあまりにも事故が多いと感じる。

斜里町（岩渕）：3の滝は事故が多い場所であり、受傷のリスクを減らしていく工夫が重要だ。実際に補助員を3の滝に配置し、注意喚起やサポートも行っているが、ルートの検討も進めていきたい。

ウトロ地域協議会（渡邊）：決算について、今年度は実質的に700万円程度の赤字という報告であった。今後、目標人数の8,000人に到達しても恐らく100万円ほどの収入増に留まると思われる。経費を削減する方向性も伺ったが、来年度500～600万円の経費削減というのは現実的なのか。あるいは町の負担金を増やす方向性なのか。運営体制についてはどうお考えか。

斜里町（岩渕）：経費については、250万円のプロモーション業務が削減可能だ。カムイワッカの事業はメディアに取り上げられることが非常に多く、こうした機会を積極活用すれば経費削減が可能だ。収入については、利用の目標人数を8,000人から、来年度は8,500人に引き上げることを検討しているが、目標を高めたとしても達成できない可能性もあり、利用者負担のみに頼ることはできない。町の負担金についてはこれから検討となるが、負担金を増やす、ないしは国の補助金や北海道の補助金を活用することを検討している。経費の削減、利用料収入の増加、公的資金の活用の3つを柱として収益安定化を図りたい。

ウトロ地域協議会（渡邊）：協力金について、さらなる値上げは検討しないのか。

斜里町（岩渕）：2年連続での値上げは抵抗があり、来年度は据え置きで提案している。ただし、値上げも検討対象と考えおり、安定化が難しい場合は、必要と認識している。また、協力金のあり方については、一律の値上げだけではなく、例えばバスの運行や補助員の増員など経費が嵩む繁忙期に絞って価格を上げるなどといった料金体系を検討することも必要と考えている。

斜里町（南出）：その他意見はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（南出）：質問がなければ、続いて資料1の続きについて説明させていただく。

資料1の後半について斜里町（吉田）と環境省（二神）がそれぞれ説明

- (3) 路線バス増便事業
- (4) 硫黄山登山道の利用実績
- (5) 知床ディスタンスキャンペーン

斜里町（南出）：後半部分について質問、意見を伺いたい。

知床自然保護協会（綾野）：ディスタンスキャンペーンに関連して、餌付け接近に関する法律の改正があったと思う。チラシではヒグマの餌やりを禁止と記載があるが、他の動物に関しては法律的にどうか。ヒグマに限定しているものなのか。

環境省（二神）：今回の自然公園法の改正により餌やり等が新たに規制する行為となり、知床国立公園ではヒグマへの餌やりや接近、つきまといについて具体的な基準を定めている。

知床自然保護協会（綾野）：法律的には他の生き物には餌付けをしてもよいということか。

環境省（二神）：法律的には、公園利用上支障の出るような餌付けは禁止できるが、そうでないものは規制対象外である。

知床自然保護協会（綾野）：そういうことなら野生動物に対する餌付けを禁止する方向に改正した方が良いと考える。ヒグマに餌をやっている人が注意された時、キツネに餌をやっていたと主張されるということも考えられる。

知床財団（金川）：野生動物への餌付け禁止については北海道の条例であったか。

知床分室（三井）：北海道の条例では、ヒグマへの餌付けを「指定餌付け行為」として禁止している。ただし、罰則としては氏名を公表する程度でしかない。他の野生動物には餌を与えて良いかとの質問だが、令和3年の自然公園法改正ではやってはいけないということになっている。先ほどの罰則の基準となる適切な距離（50mや30m）などは知床国立公園において近年定められている。基本的には自然公園法第37条第1項、第3項あたりに書いているとおり野生動物への接近や餌付けは禁止という法律の作りになっている。

ウトロ地域協議会（渡邊）：ヒグマのディスタンスについて、幌別川にヒグマが出没し、幌別橋の上からヒグマを見るという行為が度々見受けられる。交通渋滞などの問題もあるが、ヒグマとの距離としては、車から降りても問題ないと捉えているのか。行為自体はどうお考えか。

環境省（二神）：幌別橋については車を寄せる場所がなく、駐車することで交通の支障になるため道交法の観点から駐在所に指導いただいている。自然公園法ではヒグマからの距離を50メートル以上離すこととなっている。橋の上からであっても変わらないため適切な距離をとっていただきたい。

ウトロ地域協議会（渡邊）：車両からではなく、徒歩の場合には50m離れていた場合、ヒグマを観察すること自体は問題がないという認識でよろしいか。

環境省（二神）：50mというのは安全確保上での目安である。自身の安全を第一に考えていただきたい。

斜里町（南出）：その他意見はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（南出）：頂いたご意見については改めて来年度以降検討し、財源については、経費の圧縮を図りながら町だけでなく、国や道の協力もいただきながら検討していきたい。ヒグマの渋滞について、現時点での具体的な対策はないが、引き続き普及啓発等を図りながら改善に向けた取組みにつなげたいところである。

2. 道道公園線における工事の進捗について

資料2について網走建設管理部（塩見）が説明

斜里町（南出）：資料2の説明について皆様からご意見、質問はあるか。

知床財団（玉置）：落石の対策について、感謝申し上げます。当面、硫黄山の登山口付近までの開通を予定しているとの説明だったが、その先の知床大橋までの区間についての検討状況はいかがか。工事の最終ゴールとしてはどこを目指していくのか。建設管理部としての考えを伺いたい。

建設管理部（塩見）：現状として、硫黄山登山道から知床大橋間の法面について、危険度調査は行っており、対策をしなければならないというところまで把握している。我々としても可能であるならば知床大橋まで交通開放したい思いはある。ただ、まずは目の前の事業を最優先に完成させるということを考え、これの見通しが立った段階で奥の工事について更なる調査を進めていきたい。北海道庁には工事の必要性を訴えた上で、予算を要求する予定である。

知床財団（村田）：予算と工事の進捗次第かと思うが、年度の途中でのゲートの移動や開通

区間の変更となると広報が難しい。年度の初めには利用者のことを考え、見直しについて情報をオープンにしていくことが必要だ。

斜里町（南出）：ご意見感謝申し上げます。ここで一度休憩を挟み、15：05より議事を再開する。

<休憩>

斜里町（南出）：議事を再開する。

3. 2025年度以降の事業の実施方針について

資料3（前半）について斜里町（岩渕）が説明

斜里町（南出）：ここまでにについて皆様からご意見、質問はあるか。

知床財団（玉置）：湯の滝は滑落や転倒が多い場所があるが、現地補助員の意見としては今年度から開始したウォーターシューズのレンタルを利用している方の事故はほぼない状況だった。レンタルを利用した方の意見でも「レンタルシューズを利用すると滑りにくいということを周知してほしい」というものがあつた。料金が発生するものではあるが、レンタルの周知広報をしっかり行うことが事故防止につながると感じる。

ガイド協議会（畑谷）：ガイドが引率できる人数は現状6名までだが、1の滝や3の滝の下までしか行かないというツアーの場合、人数を現状よりも増やせるとよい。シューズについてはレンタルシューズを推奨することで滑りにくく、事故防止につながると感じる。

斜里町（岩渕）：ご意見感謝申し上げます。ガイドの引率人数については、同様なご意見をいただいております。今後見直しを検討していきたい。シューズについても利用者が持参しているシューズに危うさを感じることも多いため、レンタルシューズを広く周知していきたい。

斜里町（南出）：他に意見がなければ資料の説明を続ける。

資料3（後半）について斜里町（岩渕）が説明

斜里町（南出）：来年度の事業計画として、シャトルバスの運行と路線バスの増便事業の日程について提案させていただいた。基本的には今年度行った事業期間をベースに設定

している。

一同：(意見無し)

斜里町（南出）：意見がなければ、来年度の事業期間については提案の通りとしたい。カムイワッカ地区全体の利用のあり方については、現段階では具体的な検討は進んでいないが、資料3に記載の方向性を基本として、検討を進めたい。ある程度検討が進んだ段階で皆さまに報告し、協議を進めたいと考えている。道路工事の関係について先に報告いただき、通行区間の延伸についても説明があったが、改めてこの場で確認したい。シーズン途中からゲートが移設され、通行区間が変更されることは、周知や現場管理の観点から避けるべきと考えている。工事が終了したとしても、来年度の通行区間は変更せずに据え置くという対応としたいがよろしいか。

一同：(異議なし)

斜里町（南出）：その他ご意見、質問はあるか。

ウトロ地域協議会（渡邊）：ウトロの地域からの声だが、現在幌別園地や知床五湖の通信環境の改善が進み、携帯電話が使用できるようになった。今後のカムイワッカ園地として拠点化ないし再整備という言葉が出てきたが、その中で通信面の改善というものは検討しているのか。

事務局（秋葉）：カムイワッカ地区は、通信もちろん、電気や水道といったインフラ全般が脆弱な状況だ。このような条件がどこまで改善できるかによって整備のやり方や規模も変わってくるものと理解している。いずれにしても環境上の制約が非常に高い。個人的には大規模なインフラ整備が馴染むような場所ではないと感じる。拠点化ないしは安全の向上ということを考えた際、インフラを含めた整備の可能性について技術的な側面も含めて情報収集や基礎調査が必要だ。こうした検討を来年度から着手させていただきたい。地域や利用者の求める整備水準とのすり合わせなども必要だと考える。整備スペースも限られており、現状では駐車スペースが大半を占めているが、最低限の便益施設も必要と考えている。アクセスを含めた今後の利用のあり方を検討する中で、整備の選択肢を示す必要があり、そのための基礎的な検討に着手させて頂きたい。

知床財団（村田）：カムイワッカ湯の滝の利用の計画を伺ったが、カムイワッカ園地として全体をどうしていくか描きながら今後の運用を進めるべきだ。道路通行については知床大橋までを目標とし、硫黄山登山口までの区間については来年中か再来年には供用開始されるとの認識だ。一方、過去のように交通渋滞が起きる可能性もあるため、無秩序な利用にならないようなコントロールをなければならない。また、現在の利用ニーズを踏まえ、知床の世界遺産、国立公園の魅力に合っているのかどうかの検討が

必要だ。落石対策工事が来年中で一段落するということを念頭に、再来年からは全体のあり方に関する協議が動き出すようなスケジュール感で進める必要がある。カムイワッカ園地の取扱いについて、環境省では計画などはあるか。

環境省（二神）：カムイワッカ湯の滝周辺は「カムイワッカ園地」として公園計画に位置付けられており、園地事業を行いたいという事業者がいれば、すぐにでも対応できるように事業決定の手続きまでは進めている。また、事業決定する段階においては斜里町を事業者として想定している。今後どのような園地としていくのか斜里町と一緒に考え、より検討を進めたい。

知床財団（村田）：承知した。国立公園内の事業であり、全体コーディネートを含めて環境省の積極的な関りに期待したい。現状では、多様な関係者が協力し合い、カムイワッカの滝の利用制度を運用していると感じるが、それが課題にもなっている。全体としての一体的な方向性が見えなければ、それぞれの事情だけで進めていてもなかなか進まない。カムイワッカ地区全体を俯瞰すれば、山岳部においては硫黄山の新噴火口までならハードルも高くなく、日帰りで利用できる。また、昔の硫黄採掘場の遺構なども知床にとっては大きな魅力になる。現在の知床五湖に集中している利用者を分散させることにもつながるはずだ。次のステップとして、5年10年ぐらい先を目指して今議論しておかねばならない。この場で協議を行い、協力し合うことが知床の魅力の発信、保全につながると感じる。知床斜里町観光協会にも運用に積極的に関わっていただきたい。来年度に具体的な議論をするための準備を進めるべきと考えるが、どうか。

斜里町（岩淵）：ご意見感謝申し上げます。今後の課題として、カムイワッカ地区への入り込みも増加すると予想されるため、今後に向けての課題の整理、カムイワッカ園地の基本構想づくりのようなものを来年度できればと考えている。

知床財団（村田）：道路工事が一段落し、通行区間が延伸した後が直近の課題となるため、来年の議論の柱としていただきたい。我々が現場で継続的に関わる上でも、目指すべきビジョンや課題が明らかになっていることが重要だ。利用が増えればマイカー規制などのコントロールが不可欠だ。こうした検討も含めてよろしくご意見申し上げます。

斜里町（南出）：ご意見感謝申し上げます。改めて、来年度に向けて国立公園全体のイメージを中心にしながらカムイワッカ園地のあり方を含めた構想づくりに着手し、皆さまと協議をする場を作りたい。よろしくご意見申し上げます。他にご意見はあるか。

知床財団（金川）：利用のあり方の検討においてアクセスの課題は避けて通れない。カムイワッカまでをどのように線で結ぶか、そういった整備の考え方も当然重要だが、公

園内全体を面で捉えるような検討を進めるべきだ。ウトロ地区や自然センターなどのハブ拠点からどのように公園内のアクセスを整えていくか、全体のデザインにしっかり力を入れるべきだと感じる。オーバーツーリズムの対策や長年課題になっている登山口へのアクセス、岩尾別の登山口は課題がなかなか解決できていない。2次交通の充実も必要だ。また、ヒグマの問題だが、岩尾別の現状はあまり変わっていない。改正公園法が本格的に運用され、環境省や警察にも御尽力いただき、現場でなんとか持ちこたえているところだが、事故につながりかねない危険な事例は今年も一定数起こっていた。地域のヒグマ関連の連絡協議会でも同様の話がでていて、対処療法的な対策ではもはや事故は防げないという認識だ。アクセスコントロールなど、利用の形態自体もしっかり考え直す必要がある。人身事故が起きた場合、地域の経済観光にとって非常に大きなインパクトになってしまう。公園内のアクセスについては環境省にご尽力いただきたい。

斜里町（南出）：アクセスの関係については、カムイワッカ園地に一部絡む部分もある。御意見などを踏まえながら整理していきたい。地域の団体からもご意見をお聞かせ願いたい。ガイド協議会からご意見はあるか。

ガイド協議会（畑谷）：現状として利用できる場所か限られてしまっている。利用できる場所が増えていくことは非常に好ましい。魅力ある新たな園地の計画は重要だと感じる。

斜里町（南出）：ご意見感謝申し上げます。ウトロ地域協議会からはご意見はあるか。

地域協議会（渡邊）：園地の範囲を今後どう考えるか、議員視察でルシャへ行ったが、19号番屋の陸地を使用しなくなっているという。今後整備が必要ではなくなってきた場合、使用できなくなる懸念がある。どこまで観光客に開放していくのか、大きな方向性を考える必要がある。

斜里町（南出）：ご意見感謝申し上げます。自然保護協会からはご意見はあるか。

自然保護協会（綾野）：協会としての意見は特にない。40年以上前から、カムイワッカに手すりやロープを設置してほしいとの要望が出ているが、そのたびに大反対が起こっていた。誰でも行ける場所にする場所ではない、自然のままに残すべきだという意見で、毎回整備の案を却下されてきたという歴史がある。便利にして来てもらう、だけでなく不便だけに来てもらうという場所も残すべきで、それがカムイワッカであるという議論が繰り返されてきた。個人的な考えだが、例えばシャトルバスも日に数本にし、不便だけど行けるという、時間のない方は厳しいが、時間が取れる人はここで遊ぶことができる。不便なようで実は便利だということできると考える。岩尾別の登山道についても早朝にバスを運行すれば渋滞問題も解決するだろう。

斜里町（南出）：そのほかご意見はあるか。

一同：（質疑無し）

4. その他

斜里町（南出）：事務局からは特にはないが、皆様からはご意見等あるか。なければ、本日の議事は以上となる。今後の予定であるが、次回（第23回）カムイワッカ部会については、来年2月ごろを想定していた。しかし、本日の議論の中で来年度の事業計画の骨子も承認頂き、今後の予定も確認できたものと認識している。したがって、今年度のカムイワッカ部会は以上とし、年明けの開催は見送りたいがいかがか。なお、道路工事の予定等の動きについては、随時事務局から皆さまに共有させて頂く。

一同：（異議なし）

斜里町（南出）：異議が無いようなので、今年度のカムイワッカ部会について今回で終了させて頂きたく。道路の工事関係は、北海道で方向性が決まり次第、皆様にメール等でお知らせをする。来年度のカムイワッカ湯の滝、シャトルバスの運行については、今年の実施体制をベースにしながら、今回承認頂いた骨子に基いて実施をさせて頂きたく。環境省へマイクをお返しする。

環境省（伊藤）：皆様の忌憚のないご意見に感謝申し上げます。以上で第22回カムイワッカ部会を閉会とする。

（閉会）